

第6章 病弱

第1節 病弱教育の指導の実践事例 小学部2年 国語科

慢性疾患・準ずる教育課程における教科指導

1 年間指導計画

月	単元及び教材名	授業時数 (実施時数)	指導目標等	実施内容
4	じゅんばんにならぼう	1 (1)	・興味をもって、大事なことを落とさないように聞くことができる。	計画通り実施。
	おはなしを音読しよう 「ふきのとう」	10 (10)	・「人物」を基に役に分かれ、語のまとまりや響きに気を付けて音読することができる。	音読の役割分担により、児童の主体性を引き出した。
	春がいっぱい	2 (2)	・春に関わる言葉を探し、経験と結び付けて文章に表すことができる。	春の植物の写真を掲示し、知識を補った。
	書くことをきめて、しらせよう 「今週のニュース」	4 (4)	・友達に知らせるために、身近な出来事から書くことを決め、出来事の様子や自分の気持ちを書くことができる。	経験不足のため、今週の出来事だけでなく、入院前の出来事も記事の対象とした。
	じゅんじょに気をつけて読もう 「たんぼぼのちえ」	10 (10)	・時間の順序や理由を表す言葉に着目し、様子とそのわけを考えながら説明的な文章を読むことができる。	順序をおさえるにあたり、挿絵の並べ替えが有効であった。
	かん字のひろば	2 (2)	・1年生に配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。	計画通り実施。
5	ていねいにかんさつして、きろくしよう 「かんさつ名人になろう」	14 (0)	・丁寧に観察し、気付いたことや分かったことを集めることができる。	在籍なしの為、実施せず。
	きいてたのしもう 「いなばの白うさぎ」	2 (0)	・人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら、神話の読み聞かせを聞くことができる。	在籍なしの為、実施せず。

実施時数を終了後に記入。

<中 略>

単元の重点目標を記入。

10	音読げきをしよう 「お手紙」	12 (0)	・場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇にすることができる。	指導案(本案)
	主語と述語	2 (0)	・読み物や、自分がこれまで書いてきたものにも主語・述語があることに気付き、文の中や生活の中での主語・述語の関係を理解することができる。	指導案(略案)
	かん字の読み方	2 (0)	・漢字にはいろいろな読み方をしているものがあることを理解し、文の中で正しく使うことができる。	
	秋がいっぱい	2 (0)	・秋に関する言葉を探し、経験と結び付けて文章を表すことができる。	

<後 略>

2 本指導案

小学部 2 年 1 組 国語科 学習指導案

日 時 令和〇〇年 10 月 〇〇 日 (金)
第 1 校時 8 : 40 ~ 9 : 25
場 所 小学部 2 年 1 組 教室
指導者 〇〇 〇〇 (T1) 〇〇 〇〇 (T2)

1 単元名「音読げきをしよう」 (教材『お手紙』、光村図書 2 年下巻)

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

2 年生 4 人 (男子 2 人、女子 2 人) の学級である。それぞれの生活制限による授業への参加時間は異なるが、入院期間も長期に及ぶため、“一つの学級”としての集団意識が感じられる。

4 人とも学力の遅れは見られず、学年相応の学習を進めているが、前籍校での断続的な病欠により習熟の時間が不足し、平仮名・片仮名の書字が定着していない児童がおり、個別の支援を要する。

全体への配慮としては、長期入院に伴う体力低下や投薬の影響による倦怠感を考慮した授業作りが必要となる。国語科では、負担にならない程度の筆記量を意識している。一方で、一心に漢字練習のような反復練習的な活動に集中していた方が落ち着くという心理状況もあり、柔軟に授業計画を変更・再構成しながら日々の体調変化に応じている。

また、もともと在籍が少人数の上、登校できる日が揃わないこともあり、授業作りに影響を及ぼすことがある。特に、話し合いや発表をする活動の設定が難しい。話し合いでは、教員が児童役として参加したり、デジタル教科書に採録される話し合いの動画を見せたりして、話し合いの仕方を教えると共に、話し合いの様子、雰囲気を経験できるようにしてきた。発表を廊下掲示形式にし、他学年へ向けて発信する方法をとったこともあった。

(2) 単元観

「音読劇を行う」ことを、単元のゴールに据えている。“音読劇のため”という学びの必然性が、意欲を促進し、主体的な学びにつながると思う。

本単元で扱う教材『お手紙』は、主要人物「がまくん」と「かえるくん」の会話を中心となって展開される。したがって、音読の工夫を考えるに当たっては、その背景にある 2 人の心情を捉えていかななくてはならない。2 人の言動は、「手紙をもらう喜び」(又は、その裏側にある「もらえない悲しみ」)をモチーフに描かれており、2 年生の児童にとっても、自身の経験と結び付けて理解するに無理はない。

しかしながら、2 年生という学年段階では、手紙がもらえたエンディングのみに目が向き、“がまくんが手紙をもらえてよかった”式の感想に留まると予想される。単純なハッピーエンドの物語として本作品を評価するのではなく、「手紙を待つ時間」に注目させ、悲しみと喜びを共有する「がまくん」と「かえるくん」の心の交流に、豊かな読みの世界を広げていきたい。

(3) 指導観

2 年生にとって、音読は内容理解の大切な手段である。音読劇という単元設定のもと、あらためて音読のあり方を見直したい。①句読点に注意する、②漢字を間違えずに読む、③言葉のまとまりを捉えて読む、の 3 点について確認する。

その上で、音読劇として④感じを出して読む、すなわち、「音読の工夫」へと進んでいく。これについては、音読の巧拙を問うのではなく、工夫を考える“過程”を重視する。教科書に読み方の工夫を書き込んだり、その工夫の根拠となる叙述に線を引いたりする活動や、自分の考えた工夫を友達と意見交換したりする活動により、豊かな読みの力が育まれると考える。

音読練習を進めるに当たっては、児童の体調 (体力面・心理面) に注意し、負担にならないように配慮する。

音読劇の後は、単元のまとめとして「作品の登場人物に向けて手紙を書く」活動を設定している。

本時の学習は、その前段階に当たる。作品理解の要所となる“内容が分かる手紙を差出人と受取人が一緒になって待つ”という、傍から見れば滑稽な姿の内実にある“温かさ”を捉える活動である。しかしながら、こうした“温かさ”は、簡単に言語化できるものではなく、2 年生にとっては捉え難い。そこで、作品には描かれていない「手紙を待っている間に交わされた 2 人の会話を創作する」活動により、2 年生でも自然な形で 2 人の“温かさ”を味わえるのではないかと考えた。

3 児童生徒の実態

氏名（記号）	生活全般の実態	単元に関する実態
A	令和〇〇年4月転入。自発的な発言が多く、自分から教員や友達に関わろうとする。倦怠感の副作用がある投薬を行っているが、影響が少なく、元気でいられることが多い。	平仮名の拗音・促音に誤字が見られる。細かな叙述への着眼がよく、意見に独創性がある。音読は、逐字読みの傾向にある。
B	平成〇〇年7月転入。治療に対する不安が強く、治療を強く拒否して病棟内で大声を出すことがある。登校時は落ち着いていて、意欲的な姿勢で学習に向かう。	自主学习として、漢字練習や音読練習に取り組んでいる。丁寧な音読からは、心を込めて読んでいることがうかがえる。
C	平成〇〇年4月転入。長期入院に伴う体力低下が見られ、足元がふらつく時は、車椅子により登校している。投薬の副作用による倦怠感が見られる。	片仮名が定着していない。学習意欲はあるが、むらがあり、気持ちが乗らない時がある。音読は大きい声が出せないが、丁寧に読むことができる。
D	平成〇〇年4月転入。転入当初は、学習参加を拒否していたが、学習に向かえるようになり、7月からは登校数も増えている。治療に伴い、車椅子生活を送っている。	1学期は学習参加の拒否があった為、2年生1学期の漢字が定着していないが、理解力はある。読書が好きで、心情の読み取りが得意である。

4 単元の目標

- ・場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。
- ・手紙を書く楽しさを知り、物語の人物に言ってあげたいことを手紙に書くことができる。
- ・物語を読み、自分の経験と結び付けて、感想を発表し合うことができる。

5 指導計画（本時 10 / 12）

次	時間	主な学習活動
1	1	教科書の扉の詩を読み、目次を見て、下巻の国語の学習を見通す。
	2	「音読げきをしよう」という学習課題を設定し、単元の見通しをもつ。
2	3	「お手紙」を読み、内容を整理する。①
	4	「お手紙」を読み、内容を整理する。②
	5	役割を決め、音読する部分に、読み方や動き方などの工夫を書き込む。
	6	音読劇の練習を行い、感想やアドバイスを交流する。
	7	感想やアドバイスをもとに、音読の仕方を見直す。①
	8	感想やアドバイスをもとに、音読の仕方を見直す。②
	9	音読劇を発表し、感想を伝え合う。
3	⑩	「がまくん」と「かえるくん」が手紙を待っていたわけを考える。
	11	「お手紙」の人物に向けて手紙を書く。
	12	学習を振り返る。

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

音読の工夫を考えることは、その作品を深く読むことにつながる。さらには、表現（言葉）の背景にある心情や情景を探ることで、言葉がもつ意味の深さや豊かさを知り、自らも自覚的な言葉の使い手として育っていく。

以上の願いから本単元を計画した。したがって、本単元における「主体的・対話的で深い学び」とは、「音読劇」という表面的な活動の楽しさによる学習の盛り上がりには留まるものではない。「どのように音読すればよいのか」という自らの課題解決に向けた、作品の読み直しや言葉の吟味、話し合いによる相互の考えの理解と自らの考えの見直しといった追求的な学習にある。

本時は音読劇の実施後に位置付くが、「書いてある内容が分かっている手紙をどうして長い間待っていたのか」という新たな課題をめぐり、より深い作品理解につなげて単元を締め括ろうとする重要な学習過程である。本作品では「手紙を待つ時間」が、作中「親友」と表現される2人の関係性を雄弁に物語っている。本作品が描く“友人の在り方”を掴ませ、学習材の内容と自己の生き方、考え方を照らし合わせて自らの考えを形成しようとする態度を育みたい。

実践に当たっては、2年生という学年段階でも無理なく取り組めるよう、「手紙を待っている間に交わされた2人の会話の創作」という活動を設定した。「どうして待っていたのか」という問いに対する学習者なりの答えは、この場面における会話文の活写に色濃く投影されると考えた。

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・2人が書いてあることが分かっている手紙を長い間待っていたわけを考えて話し合う。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・手紙を待っている間に交わした2人の会話を想像してワークシートに記入する。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	備考
8:40	1. はじめの挨拶をする。 2. 本時の目当てを確認する。	<p>【個別の配慮】</p> <p>全員：1時間を通して体調変化に留意する。 B：体調不良を我慢する傾向にあるため、顔色や様子の変化から読み取る。 C：車椅子で登校した場合は、椅子への座り換えを支援する。 D：1時間を通して姿勢に留意する。(車椅子)</p> <p>・「長いことまっていた」の叙述に注目をさせ、①誰が②何を待っていたのかを確認した後、本時の目当てを提示する。</p>	
		<p>ふたりが、長いこと手紙をまっていたのはどうしてか考えよう。</p>	
8:45	3. 2人が長い間手紙を待っていた理由を考え、話し合う。	<p>・がまくんが、かえるくんから手紙が届くことを知っていたのかについて、その根拠となる叙述と共に確認する。</p> <p>【根拠となる叙述】 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの」 「ぼくは、こう書いたんだ。～」</p> <p>・2人とも必ずお手紙が届くことを知っているという状況について、揺さぶる。</p> <p>【揺さぶりの発問】 「来ることも、書いてあることも分かっている手紙なら、届くまで家で寝ていてもよいのではないか。」</p> <p>・2人が手紙を待っていたわけについて、考えたことを自由に発言させる。 ・ふと思いついたことでも気軽に発言できるような話し合いの雰囲気を作る。 ・児童の発言を捉え、話し合いを深めていくように導いていく。 ・話し合いの中で出てきた意見を整理し、板書に残しておく。</p> <p>【個別の配慮】</p> <p>C：倦怠感があり自発的な発言が見られない場合は、こちらから意見を聞きに行く。どうしても話したくない場合は、無理強いをせず、気持ちが向いた時に聞くこととする。</p>	
9:00	4. 2人が手紙を待っている間に交わした会	<p>・「長いことまっていた」という叙述に省略</p>	ワークシート

<p>9:20</p>	<p>話を想像して、ワークシートに記入する。</p> <p>5. 記入した会話を発表する。</p> <p>6. 次時の予告を聞き、終わりの挨拶をする。</p>	<p>されるその間の様子について想像を広げ、2人の会話を創作させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い付かない児童には、先の話し合いの中で出てきた意見（板書）をキーワードとするように支援する。 ・作品から大きく逸脱する内容を書いている場合は、作品の流れを振り返らせ、叙述に基づいて考えるよう支援する。 <p>【個別の配慮】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A：書字の支援を行う。ワークシートの記入後は誤字がないか、見直しをするように言葉がけをする。</p> <p>C：本人より、分からない片仮名の申し出があった場合は教える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・観点のよいところを認め、賞賛する。 ・次時は、『お手紙』の登場人物に手紙を書くことを伝え、期待感をもたせる。 	
-------------	---	--	--

8 本時の評価

(1) 児童の学習評価

- ・自分の意見をもって話し合いに参加しようとしていたか。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・話し合いを通して考えを深めていたか。(思考・判断・表現)
- ・登場人物の言動をもとに想像を広げていたか。(思考・判断・表現)

(2) 教師の指導の評価

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

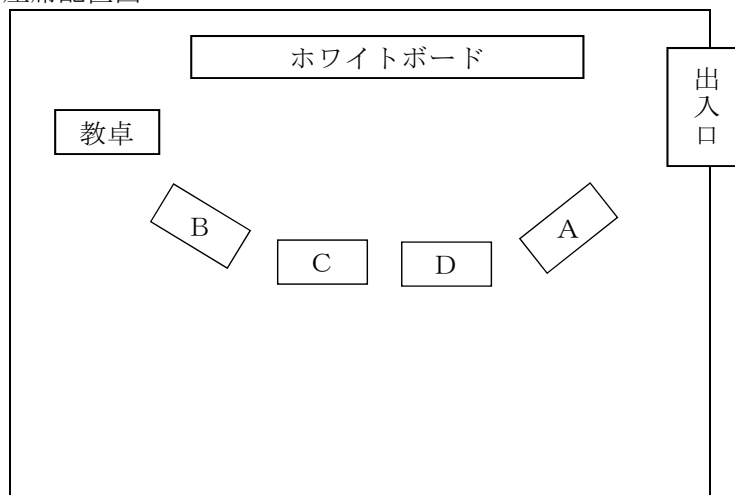
- ・発問や言葉がけにより、話し合いを充実させることができたか。(対話的な学び)
- ・意見がもてない児童や創作が進まない児童に適切な支援ができたか。(深い学び)

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について


- ・ワークシートの課題設定は、想像を広げ、読み深めを促すことができたか。(深い学び)
- ・発言や創作から観点のよいところを見出し、授業内で評価・活用できたか。(主体的な学び)

9 備考

(1) 座席配置図



(2) ワークシート



お手紙をまつ二人の会話を考えて書きましょう

名前

]

(実際のサイズはB4)

3 略指導案

小学部2年 国語科 学習指導案

1 単元名「主語と述語」

2 日 時 令和〇〇年10月〇〇日(水) 第2校時 9:35~10:20

3 場 所 小学部2年1組教室

4 単元設定の理由

本単元では、主語と述語の概念を学習する。単に用語を記憶させるのではなく、言葉を分析するためのツールとして取り上げ、実際の場合(現実の使用状況)に結び付けながら学習を進めていく。

単元の導入では、前単元の教材「お手紙」から、「誰が(は)どうした」、「何がどうする」、「誰はどんなだ」「何はなんだ」等の文型を取り出し、読みの学習と関連付ける。次に、実生活で起こりうるシチュエーション(会話)を想定し、主語、述語の役割について考えさせる。以上を踏まえ、自分たちの日常会話を振り返らせ、無自覚的に使用してきた言葉を見つめ直す機会とする。

5 指導計画(全2時間扱い)

(1) 「だれが」、「どうした」に気を付けて文を読む。・・・1時間

(2) 主語・述語をはっきりさせて、文を書く。・・・1時間(本時)

6 本時の目標

・主語と述語の関係を理解し、文に表す。・・・(知識及び技能)及び(思考力、判断力、表現力等)

7 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	備考
9:35	1. はじめの挨拶をする。	<p>【個別の配慮】</p> <p>全員：1時間を通して、体調変化に留意する。 B児：体調不良を我慢する傾向にあるので、顔色や様子の変化に注意する。</p>	
	2. 本時の目当てを確認する。	・前回学習した「主語」、「述語」について振り返り、本時の目当てを提示する。	
	<p>主語・述語をはっきりさせて、文を書こう。</p>		
9:45	3. 主語の役割について、日頃の生活場面から振り返る。	<p>・学校生活で児童がよく口にする、「先生、忘れた。」を取り上げる。</p> <p>・「先生が忘れた」という意味にもとれることに気付けるようにする。</p>	
9:50	4. 主語・述語を明確にして書く。	<p>・教科書P22の例文「ぼうしが。」を取り上げ、どのように言えば相手に伝わるかを考え、作文できるようにする。</p> <p>・挿絵を黒板提示する。</p> <p>・「ぼうしが木にひっかかってこまっています。」などの文を書いた児童がいた場合、「こまっている」のは誰かを問い、主語が抜けていることに気付けるようにする。</p> <p>【個別の配慮】</p> <p>A児：書字の支援を行う。 C児：以降、考えて作文する活動が続くので、疲労感のある場合は休息をさせながら、無理のない範囲で活動に取り組めるようにする。</p>	挿絵

10:00	5. 生活場面を振り返り、主語・述語を明確にして書く。	【例文】 「お母さんが、かぜをひいているので、体いくを休みなさいって。」 ・「かぜをひいている」のは誰なのか、「お母さんが」どうしたのか、主語・述語を補いながら作文できるようにする。	
10:15	6. 本時の学習を振り返る。 7. 終わりの挨拶をする。	・主語・述語をはっきりさせないと相手に正しく伝わらない場合があることをおさえる。	

8 備考

第2節 自立活動指導の実践事例 中学部

1 自立活動の授業作り（流れ図）

学部・学年	中学部・第2学年
障害の種類・程度や状態等	病弱・相手の気持ちが理解できず、対人関係で課題が多く見られ、その結果、学校生活への不適応により不登校となる。心身症による不適切な行動が家庭でも見られたため、入院して特別支援学校（病弱）に転校した。
事例の概要	・自己理解を深め、自己肯定感を高めることを目指した指導 ・対人に関するスキルを高めことを目指した指導

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・入院してからの健康状態は良好で、欠席は少ない。 ・自分の状態を理解することができず、ストレスが溜まってから気づくことが多い。気分転換の方法やリラックスする方法を見つけていくことが必要である。 ・「最後まで頑張りたい」という気持ちがいつの間にか「やらねばならない」という気持ちに変化してしまい、緊張や不安を抱えやすい。 ・他者と関わるのが好きで、周囲の人に自分から働きかけるが相手の気持ちを考えずに発言することも多い。 ・活動の変化への対応ができず、行動を切り替えることが苦手である。 ・学習への意欲は高いが、社会や英語が特に苦手で学習も遅れている。 ・細かい作業を好み、手指の操作性は高い。 ・動作が大きく、過度な反応や行動を示すことがある。 ・丁寧な言葉遣いをすることができる。一方で、言葉で説明された内容の趣旨を取り違えることが多い。 ・相手を気遣った言葉を使うことができる反面、タイミングがずれることもある。 ・真面目で素直な性格である。一生懸命、最後まで頑張ることが「良いこと」である思いが強く、自分の力以上の事柄を抱えてしまい行動がストップしてしまうことがある。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスに対する自分の状態に気づくことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを切り替えたり、気分転換を図ったりする方法が見つからない。 ・急な変更に対応できず、行動の切り替えが上手くいかない。 ・「せねばならない」と考えやすく、不安感を抱きやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりたい気持ちが強く、自分から集団に入ることができない。 ・自分では気づかないが、相手を不快な思いにしていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲は高いものの、教科によって学年相当の内容理解が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーに反応したり、行動したりすることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に応じて言葉や言い方を選ぶことができる。 ・丁寧に話そうとすると場や相手に合わない表現をすることがある。 ・相手が気にしている内容も気にせず指摘することがある。

②-2 収集した情報(①)を学习上又は生活上の困難やこれまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談を繰り返す中で、自分について周囲の見方や評価を受け入れることができるものの、すぐ自分の行動に反映させることが難しい。(心)(人)(コ) ・自分のルールや枠組みを変えることが難しく、後で振り返ると「こうすればよかった」と気づくことができるものの、途中で行動を切り替えることができないことがある。(心)(コ) ・「大丈夫です」と言い、負荷がかかっている状態に気づかず、ストレスが蓄積された時までSOSを出せないことがある。(心)(人)(コ) ・相手の気持ちを考えずに、自分が正しいと思うことを発言することがあり、相手が不快な思いをすることがある。(人)(コ)

②-3 収集した情報(①)を3年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・話す前に「相手はどう思うか」と一呼吸おいてから発言するようになってほしい。(人)(コ) ・自分の状況を受け止め、周囲からのアドバイスを聞いて、自分の行動を修正できるようになってほしい。(心)(人)(コ)

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題の抽出
<ul style="list-style-type: none"> ・心配な気持ちや不安が少ない時は、他者の行動や発言を受け止め、「自分と何が違うのか」に気づくことができる。(心)(人) ・「無理かもしれない」と思った時に動きが固まる等、少しずつ態度を示すようになり、限界になる前にSOSを出す行動が見られる。(心)(人)(コ) ・自分の発言に自信をもっている反面、「違うよ」と言われるとすべて否定されたと思いネガティブな思考が強くなってしまう。(心)(人)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が低下している反面、過去に褒められたことや、上手くできた経験の印象が強くなっていく傾向があり、自己理解を促しつつも自信をつけることができる取り組みが必要である。 ・自分と同じ考えや気持ちをもっていると思い、自分基準で相手のことを理解することが多いので、多様な考え方を知る必要がある。

課題同士の関係を整理する中で今後指導すべき指導目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、自分の強さと弱さをセットにして、自分を理解する力を高める。 他者の考え方や気持ちを言語化し、自分の考えとの違いに気づくことができるようにする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	☆☆・☆☆☆ (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。	☆ (1)情緒の安定に関すること。 ☆☆・☆☆☆ (2)状況の理解と変化への対応に関すること。	☆☆ (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 ☆☆☆ (3)自己の理解と行動の調整に関すること。	☆☆ (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	☆☆ (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	☆・☆☆ (2)言語の受容と表出に関すること。 ☆☆・☆☆☆ (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

〈項目と項目を関連付ける共通の意図〉

効果的な指導のために、治療計画や日内変動を踏まえて指導内容・方法を選定することが大切である。日内変動は、体調による変動だけでなく、場所や状況等によっても大きく変動することがある。一日の内に何度か変動することがあるため、それぞれの状況等に応じた項目を選定する必要がある。入院初期は治療を優先する必要があるため、具体的な指導は安定期に行われることが多い。そのため、ここでは安定期の指導内容について記述し、指導目標を達成するための項目を関連付けて具体的な指導内容を設定した。(☆☆の項目を設定)

〈具体的な指導内容と項目を関連付ける意図〉

- 自己理解を促すために、自分の行動を振り返り、他者からの評価を受け入れる機会を設定する意図で(健)(4)と(人)(2)と(コ)(2)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。
- 自分の良い部分を伝え、改善する部分が受け止めやすくなり、自分の行動に反映しやすくなる意図で(心)(2)と(人)(2)と(環)(5)と(身)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。
- 他者からの適切な評価から、相手や状況に応じたコミュニケーション力の向上を図る意図で(心)(2)と(人)(3)と(コ)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を選定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階		
	ア 定期的に自分の行動を振り返る機会を設定し、自己に対する他者からの評価を受け入れる。(主に個別指導場面における自立活動)	イ 自信がもてるように、良い部分を伝え認めた上で、良さを活かした改善ポイントを端的に伝える。(主に集団指導場面における自立活動)	ウ 相手の気持ちに気づきやすいように「今、〇〇だったと思うよ」と言語化してわかりやすいようにする。(主に授業全般と集団指導場面における自立活動)

☆：入院初期や不調時、☆☆：安定期、☆☆☆：移行期

2 本指導案

中学部 自立活動 指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（火曜日）
第2校時 10:15～11:05
場 所 中学部教室及び多目的ホール
指導者 〇〇 〇〇 (T1) 〇〇 〇〇 (T2)

1 主題名 「みんなで協力して風船キャッチを成功させよう」

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態（障害特性、課題等）

本校は病弱特別支援学校であり、入院に至る経緯や入院期間も様々である。一人一人の病状が異なり、治療に起因する学習空白もあり、学習の進度がまちまちである。また、生徒の前籍校の「学びの場」は通常の学級、特別支援学級、特別支援学校とそれぞれ異なり、知的発達の実態差も幅広い。加えて、本学習は中学部全員が参加する授業であり、1年生から3年生と、学年も異なるグループである。

しかしながら、他生徒との関わりを好み、集団での活動に対して、意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、「話すことや説明することへの困難さや苦しさ」や「自分の考えを表現することの難しさ」を抱える生徒が多く、活動内容には工夫や配慮が必要である。「言葉で自分の気持ちを伝える」ことに対しては、細かい部分を表現することに苦しさを抱える生徒やまとめて説明することに難しさを感じている生徒、相手や場に応じた言い方が苦手な生徒など多くの課題を抱えている。

(2) 主題観

本主題では、生徒の実態や抱える課題から、学習指導要領に示された自立活動の6つの区分のうち、特に「人間関係の形成」や「コミュニケーション」を中心に指導を行っていきたい。「人間関係の形成」では、(3)自己の理解と行動の調整に関すること、が重要である。衝動の抑制や自己分析が難しいために、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動調整したりすることが困難だと考えられる。そこで、自分の行動と出来事の因果関係をわかりやすく理解させたり、実現可能な目標を設定し、振り返りの仕方を学ぶ機会を設けたりして、適切な行動を選択し、調整する力を育てることが必要である。また、経験の不足や失敗経験の多さから、自己に肯定的な感情をもつことが難しい状態に陥っている場合がある。その結果、活動が消極的になったり、活動から逃避したりすることがあるので、わかりやすい活動を設定し、柔軟なルールの中で成就感を味わうことができるようにするとともに、他者からのプラスの評価を受け、自己肯定感が高まるような指導が重要である。

これまで本授業では、集団による指導を中心として、集団で行う内容を検討してきた。まず、テーマに対して自分の考えをまとめ、発表する活動を取り上げた。この活動を導入として、自分の考えをホワイトボードに書き、考えをまとめる時間を設定するようにして、一人でも多くの生徒が意欲的に取り組み、自分なりの考えをもつことができるように工夫してきた。

また後半の活動は、4人組でルールのある活動に取り組む内容である。これまで、風船運びや輪通しに取り組んできた。成功させるために「どうすればいいのかわかるか」を事前に話し合うことをねらいとしている。今回取り上げる風船キャッチは、布を4人で持ち、風船やボールを落ちないようにキャッチする活動である。参加する生徒が固定化され、グループで話し合う、協力して取り組むことに慣れてきて、生徒の関心も高い。そこで、さらに生徒の活動への意欲を高めるために、相手チームの時に風船を投げ入れる活動も取り入れ、より意欲的に参加できるように工夫していききたい。

(3) 指導観

中学部生徒の平均入院期間は、約5カ月程度であるが、入退院を繰り返している生徒や長期間に渡って入院している生徒がいる。入院前は、多くの失敗経験から自己肯定感が低下した生徒も多い。また、対人関係で「うまくいかない経験」を味わった生徒もいる。このような状況から、生徒が少しでも活動に主体的に参加すること、前向きな気持ちを示すことは重要である。

集団で行うルールのある活動では、自分の気持ちを伝えること、相手の考えを聞いてグループの意見としてまとめていくことが必要である。また、前半のテーマに基づき自分の考えを発表する活動では、自分の考えをまとめることだけでなく、勇気をもって自分の考えをみんなの前で発表することが必要である。単なるスキル獲得をすることに終わらず、集団の中で認められる経験や成功した体験を蓄積することが、本主題には求められる。そのためには、本校生徒の実態を踏まえ、一人一人に応じた指導ができるよう、授業を計画し、実施していくことが大切である。

3 生徒の実態

氏名(記号)	生活全般の実態	主題に関する実態
A	何事にも真面目で、最後までやり遂げることができる。一方で一度決めたことは最後までやり続けたいと気が済まないことがある。「やらないといけないこと」が「せねばならない」の気持ちに変わると不安さにつながってしまう。	いつも授業に対して、意欲的に参加することができる。授業後の感想を聞くと、「楽しかったです。大変勉強になりました。」と答える。自分から友だちに「今のやり方で大丈夫だった？」と聞き、他者の評価を行動改善につなげることもできる。
B	以下は省略	
C		
D		

4 目標

- 自分の考えをまとめ、発表する。
- 集団で取り組む活動を通して、自分の意見を伝えたり、良い方法を提案したりする。
- 周囲の状況や相手の気持ちを予測して、場に合う発言や行動を考える。

5 指導計画

		授業目標	授業時数
1 学期	1	相手と協力して、キャッチボールを成功させよう（ボールキャッチ） (1)話し合い活動では、(ア)自分の意見を言う、(イ)相手の意見を聞くことを積極的に行う。 (2)ルールや指示を理解して、行動する。	6時間
	2	上手くできるように考えよう（輪通し） (1)グループでの話し合いでは、自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いたりして成功する方法を考えるようにする。 (2)自分の考えや思ったことを積極的に伝える。	5時間
	3	みんなで協力して、成功させよう（風船キャッチ） (1)自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりしながら、積極的に話し合いに参加する。 (2)相手の意見と自分の意見を比較して、違いに気づく。	7時間 (本時 2/7)

6 本時の構成

(1) 本時の目標

- 自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりしながら、積極的に話し合いに参加することができる。(思考力、判断力、表現力等) (学びに向かう力、人間性等)
- 相手の意見と自分の意見を比較して、違いに気づくことができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点（指導の手立て(●)・評価の観点(☆))	備考
3分	①教室に集合し、挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ●全員が揃うまで待つ。特に2時間目から登校する生徒に配慮する。 ●全員が揃う前に始める時は、理由を説明してから始める。 ●日直を確認して、号令することを伝える。 ●落ちついた雰囲気での挨拶をすることができるようにする。 ●話が聞こえる時は、挨拶を待ったり、再度行ったりする。 	
2分	②予定を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ●今日の活動をホワイトボードに書き示す。 ●前回やったことを思い出したり、今日やることや目標を意識したりできるように、説明の仕方を工夫する。 	
15分	③ガチャトークをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガチャガチャを回して、カプセルの中に入っているテーマについて話をする。 ・ホワイトボードやイレーザ、マーカーを配布する。 ・配ってくれるかを聞き、生徒にお願いする。 	ガチャガチャ ホワイトボード(小)

		<ul style="list-style-type: none"> ●配布をした生徒には、称賛の声かけをする。 ・メモは、一人一人に配ったホワイトボードを使うように伝える。 ●メモのとり方を説明する。メモなので、自分の読める文字で良いことを伝える。また、ポイントを絞ること、自分がわかる文字で書くことを再度伝える。 ●ルールはこれまでと同じだが、再度確認する。また、今日は風船キャッチをやるために早めに終わることも事前に伝える。 ●肯定的に聞き、ポイントを抜き出して具体的にポイントを伝えるようにする。 ●ルールとして、(1)友だち(相手)の意見を否定しないこと、(2)言いたくないテーマの時は、発表をしなくてもOKなこと、などを伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆テーマに対して、自分の意見をもってホワイトボードに書くことができたか。</p> <p>☆他の生徒の意見を聞いて、自分の考えを発表することができたか。</p> <p>☆活発な意見の交換をすることができたか。</p> </div> <p>※風船キャッチに時間をかけることができるように3回程度で終わりにする。</p>	レーザー マーカー
25分	④多目的ホールに移動する。 ⑤4人組で風船キャッチをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ●移動したら、椅子を準備して話を聞く位置で待つように伝える。 ・椅子に座り、説明を聞く体制を作る。 ●前回から時間が空いたので、(1)内容、(2)ルールの説明を丁寧に行う。 ・ルールは、(1)布の結び目を持つ、(2)4人で布を持つ、(3)動きを合わせて、空中に飛ぶ風船をキャッチする、ことを伝える。 ●適宜、話し合いの時間を確保し、「どうしたらキャッチすることができるのか」を話し合うようにする。お互いの意見の聞き方や「相談の仕方」について、意識できるようにする。 ●参加を渋る生徒には、声をかけつつ、誘うようにする。少しでも活動に参加したい意思を示した時は、T2が声かけをして誘う。 ●ボールを投げる活動に参加したい生徒を聞き、できるだけ多くの生徒が経験できるように配慮する。キャッチしやすいように投げる位置や強さを工夫できるように声かけをする。 ●感想を聞き、上手くいったこと、話し合い活動について振り返ることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆グループの活動に参加して、自分の意見を話すことができたか。</p> <p>☆グループでの話し合い活動に自分から参加することができたか。</p> </div>	バルーン (小) 風船(大)ワ ブルボール
5分	⑥教室に戻り、終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間になるまで連絡帳に今日の感想などを記入する。 ●感想を書くことが意欲的にできない生徒もいるので、「どうして感想を書くのか」、「どんなことを書けばいいのか」等、説明をする。 ・時間になったら、やっていることをやめて終わりの挨拶をする。 	

7 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

A	①相手の意見を聞いて、自分の考えを伝えながら、積極的に話し合いに参加したか。 ②自分の意見と他の生徒との考えの違いに気づいたか。
B	
C	
D	

以下は省略

(2) 教師の指導評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

- ・自分の考えをまとめたり、発表したりする際、教材を十分活用できていたか。（主体的な学び）
- ・生徒が活動の中で他の生徒と話し合ったり協力したりする場面を設定することができていたか。
（対話的な学び）
- ・他の生徒の意見を聞いて、自分の考えと比較したり、違いに気づいたりするように問いかけを工夫することができたか。（深い学び）

8 備考
省略

第3節 一人の指導に焦点を当てた実践事例 高等部一般学級 Yさん（筋疾患）

1 教育支援プランA（個別の教育支援計画）

特別な教育的ニーズ	<p>対象生徒は現在①学習に対して前向きに取り組んでいる。②体調面などから声は小さいが、様々なことに挑戦する意気込みをもっている。③周りに気をつけながら電動車椅子を上手に操作して移動できる、という状態である。</p> <p>したがって、体調の維持に留意し、日々の活動や体験などを通して、基礎学力の定着とコミュニケーション力、物事に前向きに取り組む力がより身に付くようになってほしい。そのため、教材の工夫、環境の整備などの支援が必要である。</p> <p>支援に当たり、本人の意思を確認し、適切に行うなどの配慮が必要である。</p>			
本人・保護者の願い	<p>様々なことを体験しながら、充実した楽しい学校生活を送りたいと本人も保護者も考えている。しかし、病気の進行から体力的に厳しくなってきたので、無理のないように過ごして欲しいと保護者は思っており、本人も自覚していて、無理はせずに過ごしたいと思っている。</p>			
合理的配慮の内容	<p>将来の生活に向けて、基礎学力の向上やコミュニケーションの力を伸ばし、前向きな姿勢を高めるように、身体的な補助といった配慮や課題設定などの適切な支援を行っていく。その際、本人の体調に十分に配慮して進めていく。</p>			
教育機関の支援		目標・機関名	支援内容	評価
	所属校	<p>①基礎学力の定着を進める。</p> <p>②健康の維持増進を図る。</p> <p>③コミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>〇〇特別支援学校</p>	<p>①学年相応の学習内容を精選して指導する。iPad・パソコンを使う力を付ける。</p> <p>②体調管理が意識できるように、必要に応じて声かけや支援をする。</p> <p>③会話などを通し、相手を意識し自分の考えが伝えられるよう適宜支援する。</p>	<p>①適切な支援を行う中で意欲的に学習に取り組んでいくことができた。</p> <p>②教師側も配慮をしながら健康の自己管理ができていた。</p> <p>③自分から積極的に話しかけ、コミュニケーション能力を向上することができた。</p> <p style="text-align: right;">(R〇〇.3)</p>

2 教育支援プランB（個別の指導計画）

指導方針	<p>学習や行事など何事にも積極的に取り組む姿勢で臨んでおり、体調に十分に気をつけ、充実した生活を送らせたい。また、会話や関わりを好み、友達に優しく接して、周囲からも信頼を受けており、よりコミュニケーションの力や自分の生活設計を考えていく力を高めたい。機能面での支援が必要な部分へは、具体的な支援を行い、本人が意欲的に生活をしていけるように指導を行っていく。</p>		
指導に結びつく実態			
5身体の動き	<p>机上で文字を書いたり、本をめくったりするなどの手先を使う簡単な操作は、自分で行うことができる。しかし、体調にもよるが30分程度継続すると疲れてしまう。手を上げたり、机より高いところへ手をのせたりすることなどはむずかしい。</p>		
各教科等	学習課題・目標	指導内容・方法（手だて）	評価
総合的な探究の時間	<p>・社会体験学習に向け、仲間と調べたり、計画を考えたりする。</p>	<p>・地図などを渡し、パソコンを使って調べる際にアドバイス等の支援をする。</p>	<p>・仲間と協力し、計画をまとめた。積極的に意見を出し、実際の行動をイメージしながら、パソコンを使って調べられたか。</p>

3 年間指導計画

月	単元名 (題材名)	授業 時数	授業目標	評価
9月	社会体験 学習	4	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと話し合い、現地で行きたい所の候補をあげて、調べてみるとともに検討をする。 ・発表に向けて、資料をまとめる。 	意見を多く出し、調べやまとめも意欲的に取り組んだか。
10月	社会体験 学習	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で共通の指針となる『ミッション』の案を班の友だちと話し合っ考える。 ・友だちと協力し、わかりやすく発表する。 	前回のことを想起して意見を出し、発表もしっかり行えたか。
11月	社会体験 学習	4	<ul style="list-style-type: none"> ・『ミッション』に沿っての班の行動計画を友だちと話し合っ決める。 ・事後学習に向けて、当日の様子をまとめる。 	よく考えて意見を出し、まとめも熱心に取り組んだか。

4 ポイントを絞った指導案

高等部 1・2・3 学年 Dグループ 総合的な探究の時間 学習指導案

日 時 令和〇〇年〇月〇日 (〇)

第〇校時 : ~ :

場 所 〇〇〇室

指導者 〇〇〇〇(T1) 〇〇〇〇(T2)

1 単元名 「社会体験学習」

2 単元設定の理由

高等部Dグループは、準ずる教育課程（類型Ⅰ）及び下学年対応（類型Ⅱ）の9名の生徒で構成されている。グループの内訳は1年生5人、2年生3人、3年生1人である。生徒の障害種は、筋ジストロフィー、脳性まひ、二分脊椎である。独歩で移動できる生徒が3人、車いすを使用している生徒が6人である。車椅子の種類は、電動が3人、電動アシストが1人、自走式が2人である。移動は、独歩も含めて全員介助を必要とせず、校内での教室移動では、ほぼ一人で行っている。コミュニケーションについては、ほぼ全員の生徒が教員からの質問等の促しがあると、自分の意見や考えを発言することができる。しかし、接点の少ない校内の児童生徒や教員とのやりとりでは、自分から話し始めたり、その場に合わせて話をしたりすることがあまり得意ではない。日常の外出経験は、数名の生徒が自分で計画し、レスパイトサービス等を利用して、映画・レジャー施設等への外出を時々行ってはいるが、ほぼ全員が、近くに買い物に行くときでも保護者等と共に行動している。

社会体験学習の主な目標は、「卒業後に社会へ出て行くことを念頭に置き、学校生活では経験できない社会へのつながりや関わり等について、実体験を通して経験や研鑽を積む。問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。そして、行事を通して、今後の自立に向けての個々の課題を出し合い改善を図る」ことである。当日のみならず、事前や事後の取り組みから社会へ出たときへとつながる様々な力を培える良い機会であると考え、単元を設定した。

今回の一連の授業を通して、出かけることを楽しみにしながら事前学習に取り組んでほしいと考えている。実際の社会体験学習でより大きな喜びを得ることが、今後の外出への意識、計画、行動へとより進むことになると考える。

創造的に取り組む態度を育てるために、班行動の時間を確保して、生徒が自主性を発揮できるような時間帯を設定した。なぜなら、もてるスキルを存分に使い、できるだけ生徒自身が調べ、自由にそしてゆとりをもって計画していくことをこの行事に組み込んでほしいと考えたからである。また、共通の目当てとして前回の社会体験学習で教員が設定したミッションも、今回は生徒に案を考えさせ、全員で決めていく形とした。グループ内に編成された3つのグループが共通して実行するのがミッション＝指令で、前回は「街の人に声をかけてベストな記念写真を撮影せよ！」というものが3つのミッションのうちの一つであった。社会の中でのコミュニケーション力を伸ばすことをねらい、今回も自分たちで新たなミッションを考えていく中で社会と関わっていく力をより育むことを期待した。

協働的に取り組む態度を育てるために、班行動は、生徒が3人ずつの少人数とし、希望や意見をより話しやすくした。お互いの希望や意見を出し合いながら、調整して、調べて計画していくことは、とてもよい経験となると考える。

授業の指針を教員が示してはいくが、教員は基本的には見守る姿勢で、生徒間で考え、気づき、まとめあげることを願った。その過程の中で、友達どうしのコミュニケーションをより深め、成就感、達成感をより味わってほしいと考えている。

3 抽出児童生徒の実態

氏名（記号）	単元（題材）にかかわる実態	合理的配慮の実施内容
Y	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン等で調べることはできるが、細かい行動計画を考えていくのは難しい。 ・興味・関心は様々だが、限られた範囲となっている。 ・自分から話しかけ、コミュニケーションを楽しむが、意見調整はやや苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使用し、キーボードやマウスの位置などに配慮をする。 ・本人に確認をしながら、必要なときに話し合いの意見調整などについてのアドバイスをを行い支援する。

4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

外出は、多くの生徒が興味・関心をもって楽しみと捉えるものである。そのため、社会体験学習の外出に関することを調べたり、考えたり、話し合ったりすることは、意欲的に取り組んでいくことが期待できる。授業では、生徒の主対的な学びへの活動を支援できるように調べ学習のためにパソコン等の機器を準備したり、必要な時に的確なアドバイスを行ったりするようにしたい。

意見がなかなか言えない生徒にとっても、興味が深い話題なので、自分の考えを表現しやすい。話し合いの人数もはじめは少ない集団とすることで、緊張感が少なく済むという配慮もしている。また、教員がさりげなく話し合いでの意見を言いやすくなるようなきっかけを作るといった支援も状況によっては行っていきたい。誰もが楽しい外出を目指すことで、コミュニケーションが深まりながら、対話的な学びとなっていく。

調べ、考え、話し合い、学んだことをいかに実際の社会体験学習で活かせるか、楽しい充実した外出になるようにと検証していくことが深い学びへとつながっていく。授業においては、生徒の主体的な活動に支援的な立場をとりながらも、生徒が実際の社会体験学習をシミュレーションできるような示唆を適宜していき、十分に吟味することを促すことも大事であると考えられる。学んだことを「生きて働く知識及び技能」として活用し、「学びを人生や社会に生かす学びに向かう力」へと高めていけるように「未知の状況で活用できる思考力、判断力、表現力」を培いたい。

5 本時の学習

(1) 共通目標

ア 班で調べたり、話し合ったりしたことを、協力して全員の前でしっかりと発表をする。

(知識及び技能)

イ 他の班の発表を聞きながら、ミッションについて意見を持ち、決定することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 個人目標（Y児）

ア 全員の前で、はっきりとした声で、わかりやすく発表をする。(思考力、判断力、表現力等)

イ 友だちの発表を聞き、話し合いを円滑に進めていく。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 展開

配時	学習内容（生徒の活動）	○教員の指導 ※指導の意図（ねらい）	★特筆すべき配慮
1分	1 始まりのあいさつ ・日直が号令をかける。	○全員がT1に注意を向けていることを確認して、日直に合図する。 ※始まることに意識を向ける。	
5分	2 本時の内容の確認 ・T1から本時の内容について話を聞く。 ① 班ごとの発表 ② ミッションの話し合い	○班ごとの調べ学習の経過を発表することを話す。ミッションの案と班で行きたいところの2点についてみんなに伝えることを確認する。 ※発表の際に、聞く人に内容がうまく伝わるように促す。 ○ミッションは、各班からの意見を全体で	★班ごとに発表の際の役割分担について、再度確認を取っておく。 ★前回の経験を活

20分	3 班ごとの発表 ・電子黒板を使いながら、ミッション案と行きたい所の候補を各班が順番に発表する。	話し合って、決めることを確認する。 ※自分たちで行事を組み立てていく意識をもてるようにする。 ○はっきりとした声でゆっくりと話すなど、聞いている人に分かりやすく発表していけるように声かけをする。班の一人一人が役割をもって発表していくことを確認する。 ※人前で発表する経験を行い、相手に分かりやすく伝える意識を高める。	かしながら、各々が話し合いに臨めるように言葉かけをする。 ★発表を聞く側の生徒に、充分に関心を寄せるようにことばかけ等の支援を行う。
13分	4 全体での話し合い ・各班からの案から、話し合いでミッションを1～2つ選んで決定をする。	○生徒同士で意見を言いながら、ミッションを選んで決めていけるように、話し合いを見守りながら、促し等の支援をする。意見を言えそうな生徒が見られたら、状況によっては発言を促す。 ※生徒が自分たちで考えていくという意識をもてるようにする。	★前回の経験を活かし、無理なく果たせるミッションという視点をアドバイスする。
5分	5 まとめ、次時の確認 ・ミッションを入れての日程を簡単に確認する。 ・次回の確認をする。	○自分たちで話し合って決めたミッションを組み込んで、10月の事前学習(班での話し合い・調べ活動)において、計画を十分に練っていくことに留意して伝える。 ※話し合いで決まったことを踏まえながら、次回からの班での事前学習に取り組む意識を高める。	★ゆとりをもった、みんなが楽しめる計画にしていけることを確認する。
1分	6 終わりのあいさつ ・日直が号令をかける。	○日直に合図をして、全員で元気に挨拶するよう言葉かけをする。	

6 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

- ・班で調べたり、話し合ったりしたことを理解して(知識)、みんなの前で的確に発表することができたか。(技能)
- ・友だちの発表を聞きながら、自分なりに学び、考えて、意見をまとめたり、(思考・判断・表現)話し合いを円滑に進めていったりすることができたか。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 教師の指導評価(学習環境や教材教具等についての評価も含む)

- ・生徒が調べたことを的確にまとめ、工夫をこらした発表ができていたか。(主体的な学び)
- ・生徒がお互いの意見を尊重し、自分たちで考えをまとめていけるような環境設定(意識づけ)ができたか。(対話的な学び)
- ・生徒が社会体験学習の取り組みを今後の生活に活かしていこうという意識をもてるような問いかけや言葉かけを工夫して行うことができたか。(深い学び)

7 準備物

- ・電子黒板(パソコン他の機器)
 - ・ミッション案をプリントした紙
- ※各班が作成したプレゼンテーション(パワーポイント)のデータ

第4節 自立活動における参考資料

1 慢性疾患 中学部 自立活動 「ストレスコーピング」 けやき特別支援学校

自立活動の目標は、個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことである。慢性疾患における自立活動では、自己管理する力を育てることが重要になるため、特に「健康の保持」、「心理的安定」の二つが大切となる。指導形態は、一対一の個別の指導が基本となるが、学習効果や指導の効率を高めるために、グループ編成による指導、学級単位の指導、抜き出しの指導等様々な形態が考えられる。

けやき特別支援学校中学部でも、今までの生徒の実態から、目標を二つに焦点化し、内容を選定している。その中に、自己管理能力を高めていくための取組の一つとして、「ストレスコーピング」がある。指導形態は学部全体とし、個々の目標を設定している。

(1) 「ストレスコーピング」の授業の流れ

はじめに、「ストレスとは何か？」として、基礎的なストレス理論を学習する。次に、ストレスアンケートを実施し、全員が病気、入院生活によって大きなストレスを抱えていることを確認し合う。そして、最後にストレスの対処法やストレスを減らす方法を知り、自分ができる方法を考えていく。

ア 「ストレスとは何か？」を学習する

- ストレスの語源
- よいストレス (Eustress) ・わるいストレス (Distress)
- ストレッサーとストレス反応 (神経伝達物質・ホルモン)
- ストレス反応の成り立ち ストレッサー → 認知 → 対処 → ストレス反応

イ ストレスアンケートを実施する

アンケート

	Distress と 感じたできごと	どんな気持ちに なった？	からだの 状態は？	どのように した？
例) 入院生活	痛いリハビリ	リハビリを止めた い	行く前に汗をかい た	終わった後の ことを考えた
入院生活で				
学校生活で				
友だち関係で				
家族関係				
その他				

	Eustress と 感じたできごと	どんな気持ちに なった？	からだの 状態は？	どのように した？
なんでもいい のであったら 書こう				

ウ アンケートの結果

<p>入院・治療生活のストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長手術後の痛み ・延長する時の痛み ・リハビリは痛い！つらい！ ・リハビリはとてつつかれる ・足の不便さ ・家族とはなれて入院 ・お母さんと離れて嫌だ ・運動制限 ・体を動かしたい ・毎日の服薬 ・食事に肉が出ない ・同じような食事のメニュー ・狭い部屋での人間関係 ・病院生活自体 ・病気の痛み ・トイレの回数 ・外来の待ち時間 ・同室の子がうるさい！！ ・治療（髄注や点滴）がつらい ・好きな食べ物が食べられない ・治療で、髪の毛が抜けた ・持ち込み食ができない 	<p>家族関係のストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俺のほうが大変なのに親の方が大変って言っていること ・家族に会いづらい ・家族と話せない ・タバコを吸われるとき ・兄弟が遊んでくれないこと <p>病気のストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだのことを考えると、どうして生まれてきたのか、と思う ・手術をしているが、どうせいつかは死ぬのなら、やっても無駄ではないかと思う時が・・・ ・これから先の人生を考えると不安になる <p>勉強の遅れ、友達と離れて…などたくさん</p>
---	---

エ アンケート結果を共有する

全員が、病気、入院生活によって大きなストレスを抱えていることを確認し合う。気持ちの共有化の中で、連帯感と励ましが生まれる。

オ ストレッサーを弱める方法を知る

**気持ちのストレスを解消するための
3つのR**

Rest 休む	無理せず休養	寝る、食べる、運動する
Recreate 気晴らしする	いつもやっていることから離れてリフレッシュ	
	趣味を楽しむ、気晴らしをする	
Relax くつろぐ	身体と心のバランスをとる	
	深呼吸する、ストレッチ運動	

具体的には・・・

リラックス

深呼吸、目を閉じる、昼寝、散歩、好きなこと・ものを思い浮かべる、仲間と会話、音楽を聞く
ゆっくりとお風呂に入る、買い物・食事に出かける、ストレッチ、アロマテラピー、ポーツとする

自己表現

気持ちをノートに書く、日記をつける、やりたいことや夢を考える、絵を描く、粘土や陶芸、歌う

発散

笑う、大声で叫ぶ、泣く、ボールを蹴る、クッションをたたく、新聞紙を破る、おしゃべり、買い物
カラオケ、ライブに行く、出かける、スポーツをする・スポーツを観る、ダンス

集中

何かに熱中する、趣味を楽しむ、ハイキング、サイクリング、パズル、ゲーム、読書、映画鑑賞
ペットを飼う、美術館・博物館に行く、何かに挑戦する、資格を取得する

変化

髪型を変える、部屋の模様替え、掃除・整理整頓、寄り道をしてみる、テレビを見ないで過ごす
時計をしない、無駄なことをしてみる

カ 自分にできるコーピングを考える

ストレスコーピング

☆やってみようかなと思うコーピング

☆サポートしてくれる人は

☆今の自分にかけることは

☆病棟でできる好きなこと

☆元気フード

☆好きな匂い

(2) ストレスコーピングの授業を通して

生徒たちは、ストレスをもつことは当然で悪いことではないことに気付き、友人も同様のストレスをもっていることを確認することで、生徒たちは連帯感と安心感を得ることができる。そして、ストレスコーピングを知り、行うことで、以前より治療や入院生活に前向きになることが期待される。また、我慢せずにストレスを発散する方法を知り、制限のある生活の中でもできることがあることに気付くことができる。

一人一人のストレスは違い、ストレスコーピングもそれぞれであるが、集団で共有し、共感することで、新たな一歩を踏み出す力になっているのではないかと考える。

2 精神疾患 自立活動 尺度表「自分メーター」の取組 けやき特別支援学校伊奈分校

(1) はじめに

伊奈分校は、県立精神医療センターに入院している児童生徒が在籍する精神疾患及び心身症の病弱特別支援学校である。障害の状態は、二次障害を併せ有する発達障害圏、解離性障害、愛着障害、強迫障害、適応障害などの神経症圏、うつ病、統合失調症などの精神病圏等である。症状は、不登校、暴言暴力、自傷、希死念慮、非社会的行動、生活リズムの乱れ等があり、その背景には、障害への無理解からくる不適切な対応や家庭環境・家族の問題、学校でのいじめ、対人関係のトラブル等様々なことがある。それとともに、児童生徒自身の不安定さ、コミュニケーション能力の拙さ、対人関係を築く力の弱さ、自己肯定感の低さも顕著である。

このような児童生徒が、自分の強みや苦手さを知り、自己理解を深め、社会で生活する力を身に付けるために、尺度表「自分メーター」を作成し、活用している。

(2) 特総研の調査との関連について

伊奈分校は、国立特別支援教育総合研究所病弱教育研究班の「精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育の実態とニーズに関する基礎調査」（平成28年度）及び「精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究」（平成29年度～30年度）に協力している。その中の「精神疾患等のある児童生徒の教育的ニーズのカテゴリー」を参考にし、尺度表「自分メーター」を作成した。調査の「教育的ニーズ」は、教員の視点に立ったものだが、「自分メーター」は、子どもの視点に立って実態や課題を把握できるものとして考案した。

(3) 「自分メーター」の活用方法（アセスメント⇒実践⇒評価⇒引継ぎ・応用）

①転入後、1か月以内を目安に、本人と担任がそれぞれ「自分メーター」をとる。

②在籍中、尺度表を参考にしながら、定期的に面談を行う。（原則、週1回）

③転出前、再び本人と担任が「自分メーター」をとり、評価を行う。

④復学支援会議（主治医・保護者・伊奈分校・前籍校等で行う復学に向けた会議）において、有効だった支援を「指導に生かせる配慮事項」として引き継ぐ。

その他：「自分メーター活用ブック」の活用、保護者面談での活用、「自分マニュアル」の作成、復学後の継続した活用、地域支援・学校コンサルテーションでの活用等

(4) 定期的な面談について

児童生徒との面談は、自立活動の時間を利用し、週に一度を目安に、担任と一対一で行う。面談では、「自分メーター」を活用し、それぞれの課題について目標設定や振り返りをしながら、復学に向けて必要な力を育てる。面談を行うことにより、以下のような成果が期待できる。

ア 担任との信頼関係が育ち、安心できる環境の中で、学校生活が送れるようになる。

イ 自分のための時間が保障されることで、自分が大切な存在であることに気付ける。

ウ 感情の言語化の力が育ち、感情のコントロールや援助希求ができるようになる。

(5) 「自分メーター」の効果

ア 自分の強みや苦手さを知り、自己理解を深めることができる。

イ 自分自身について人に伝えることができ、一緒に考えるツールとなる。

ウ 気持ちの「言語化」、「外在化」の力が育ち、感情のコントロールや援助希求ができるようになる。

エ 成果が視覚的に提示できる。（自己理解が深まることで数値が下がる場合もある。）

オ 転出先や進学先へ「合理的配慮」等の有効な引継ぎができる。

いなぶんこう じぶん
伊奈分校 自分メーター

きにゆうび へいせい ねん がつ 日にち
記入日 平成 年 月 日

がくぶ ねん なまえ
学部 年 名前

○この尺度表は、みなさんの得意なことや苦手なことを知り、これからの学校生活でどんな力を付けたいか、またどんな力が付いているかを一緒に考えるものです。気軽に今の自分について、答えてみましょう。

○付け方…5段階評価で、1が一番低く、3が普通、5が一番良い評価です。

例 1ー全くそう思わない 2ーそう思わない 3ー半分くらいは思う 4ーまあまあ思う 5ーそう思う

1ーできない 2ーできないことが多い 3ー半分くらいはできる 4ーまあまあできる 5ーできる

1ーいつもある 2ーあることが多い 3ーある時とない時がある 4ーたまにはある 5ー全然ない

1- 😞 2- 😐 3- 😊 4- 😄 5- 😁

1 こころ	①不安や悩みはありません。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	②自分の気持ちをコントロールできます。(イライラしても気持ちをおさえられます。)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	③気になることがあっても、気持ちを切りかえてやるべきことができます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	④がんばろうと思う意欲や元気があります。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑤自分の気持ちや、自分の今の状態をわかっています。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑥自分の気持ちを言葉や文で伝えられます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑦自分の気持ちは穏やかです。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑧少しのことでテンションが上がったり、下がったりすることはありません。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑨自分のことを大切に思います。または、自信を持てることがあります。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑩他の人のことを大切に思います。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
合計		てん点

2 しゃかい	①集団の中で活動できます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	②社会や学校のルール、ゲームのルールなどを守れます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	③人(例えば友だちや先生)と話すことが好きです。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	④友だちとけんかや言い合いをしません。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑤家族(施設の職員さん)との関係は良いです。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑥学校の先生を頼ることができます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑦異性の友達(男子は女子、女子は男子)とルールを守って仲良くできます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑧信用できる友達や先生がいます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑨困ったときは相談できる人がいます。(それはだれですか?)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑩表情や態度を見て、相手の気持ちがわかります。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
合計		てん点

3 がくしゅう	①自分で計画的に学習できます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	②先生の話聞きながら、ノートを取ることができます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	③先生の言っていることや指示がわかります。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	④文章を読んで、理解することができます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑤漢字や英単語を書くことが得意です。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑥黒板をノートに写すことができます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑦記憶力がいいです。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑧集中力があります。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑨苦手な教科でもがんばろうと思っています。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑩いろいろなことに挑戦しています。(身の回りのこと、料理、公共の交通機関での外出など)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
合計		てん点

4 からだ	①健康です。 <small>けんこう</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	②手先が器用です。 <small>てさき きよう</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	③体力には自信があります。 <small>たいりよく じしん</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	④テキパキと行動できます。 <small>てきぱき こうどう</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑤運動が好きです。 <small>うんどう す</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑥必要な時には、じっとしていたり、待つことができます。 <small>ひつよう とき ま</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑦匂いが気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。 <small>におい き こま</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑧音や声が気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。 <small>おと こえ き</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑨光(明るさやまぶしさ)が気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。 <small>ひかりあか き</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑩物や服の感触が気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。 <small>もの ふく かんじよく き</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
合計	てん 点	

5 せい かつ	①学校の連絡や、人の話をきちんと聞くことができます。 <small>がっこう れんらく ひと はなし き</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	②見通しを持って計画的に行動できます。(何をしたらいいのかわかります。) <small>みとお も けいかくてき こうどう なに</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	③予定が変更されても平気です。 <small>まてい へんこう へいき</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	④忘れ物はしません。 <small>わすれ もの</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑤物をなくすことはありません。 <small>もの</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑥整理整頓ができます。 <small>せいり せいとん</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑦学校に行くことができます。 <small>がっこう い</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑧教室に入ることができます。 <small>きょうしつ はい</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑨学校(相談室や保健室)に居場所があります。 <small>がっこう そうだんしつ ほけんしつ いばしょ</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑩家に自分にとって安心できる場所があります。 <small>いえ じぶん あんしん ばしょ</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
合計	てん 点	

6 身の まわり	①朝、きちんと起きることができます。 <small>あさ お</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	②睡眠をきちんととっています。 <small>すいみん</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	③食事は三食とっています。 <small>しょくじ さんしょく</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	④食べ物の好き嫌いはありません。(アレルギーは除く) <small>た もの す きらい</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑤自分の体調や病状をわかっています。 <small>じぶん たいちよう びやうじよう</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑥薬を自分で管理できます。(必要な時に飲むことができます。) <small>くすり じぶん かんり ひつよう とき の</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑦季節や目的に合った持ち物の準備や服装ができます。 <small>きせつ もくてき あ もの じゆんび ふくそう</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑧身だしなみ(洗顔・歯磨き・入浴・洗髪など)に気を付けられます。 <small>み せんがん ほみが にゆうよく せんぱつ き つ</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑨気持ちの支えになる存在やものがあります。 <small>きもち さいえ ぞんざい</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	⑩自分なりのストレス対処法があります。 <small>じぶん たいしよほう</small>	1 - 2 - 3 - 4 - 5
合計	てん 点	

合計	1 ころ	てん 点
	2 しゃかい	てん 点
	3 がくしゆう	てん 点
	4 からだ	てん 点
	5 せい かつ	てん 点
	6 身の まわり	てん 点

